

・「樹種の多様性を図る更新方法の開発」

～地がき・根返しから10年後の成果と今後の展開～

Q: 根がえしの抜根の太さについて、どの程度がよいですか？。

A: 新たに開始した試験地で根返しに係る作業時間を計測した結果、ザウルスロボを使用した根返しの場合、伐採前の胸高直径（16～61cm）が大きくなると根返しに係る作業時間（1～18分）も長くなる傾向となりましたが、後継樹の定着場所の確保を考えると伐根は大きい方がよいと考えます。

Q: マウンドで成長した樹木は、将来的に伐根が腐っていくことで倒れやすくなると思いますが、そのあたりで分かっていることがあれば教えていただいてもいいですか。

A: 本試験地での伐根は腐れていないため想像でしかありませんが、伐根が腐れる前にマウンド部で成長した更新木の中で最終的にもものは、主根・側根の成長により倒れる確率は低くなると思われれます。

Q: 今後のテーマとして「育成天然林について」をお願いしたい。

A: 検討します。

Q: 地がきの方法によりHA単価にどのくらいの差が出ますか？

A: 新たな試験地で試算したコスト比較では、小面積地がき＋根返し作業は機械地拵後にコンテナ苗を植栽した人工造林経費と比べて、トドマツ植栽の43%、カラマツ植栽の63%で実行が可能という試算となりました。

また、小面積地がきは通常行われている大規模な地がきに比べて75%で実施可能という試算となりました。

小面積での地がきは更新面から除去物を排出する際の移動時間が少なくすむことから、地がきに係る作業時間を短縮することが可能と考えます。